

# 金融教育における グローバルな視点

## 文化の橋渡しと俗説への挑戦

先生ご自身と担当している授業科目についてご紹介ください。

教授：バライ・ムニム・クマールです。バングラデシュ出身で、インドで高等教育を修了しました。来日するまでバングラデシュの2つの大学で教鞭を執り、2010年からAPUで教えております。それ以前は、フルブライト奨学生としてアメリカに、アジア奨学金フェローとしてベトナムに留学していました。APUでは、金融論、国際金融論、金融市場と金融制度、投資・証券分析を含む金融の主要科目と修士課程の科目を教えています。



バライ ムニム クマール教授  
2010年よりAPU教授

APUのカフェテリアでお気に入りのメニューは何ですか？

教授：私はそれほどカフェテリアを訪れませんが、カフェテリアに行った際にはいつも、チキン、茄子の揚げ出し、みそ汁、ときどきサラダと、そしてもちろんご飯を食べます。

Part I:  
これまでの経歴

## 先生の専門分野である金融に関する一般的な俗説のなかで、否定したいものは何ですか？

教授：金融分野には多くの俗説がありますが、特に2つの俗説を取り上げたいと思います。1つは、金融の分野で秀でるためには高い数学のスキルが必要であるという考えです。数学は役に立つ一方で、必須の条件ではありません。日常的な学習、注意深さ、そして教えられている概念を徹底的な理解することの方が重要です。金融は数学が得意な人だけに向けたものだという考え方は、否定すべき俗説です。



2つ目の俗説は、金融の仕事に関連することです。この分野の仕事は退屈で機械的であり、長時間労働で刺激もないという誤解があります。しかし、私はこの説には反対です。金融とは数字だけではなく、人間の行動、特に投資行動を理解することです。そして技術の進歩とともに常に進化している活動的な分野です。毎日が新しい挑戦と機会に満ちており、退屈な仕事とはほど遠いです。もしあなたが常に最新技術を取り入れるのが好きであり、絶えず変化する環境で成長できる人なら、金融の仕事は信じられないほど充実した仕事になるはずです。そのため、この俗説も否定する必要があります。



### バライ教授の真実:

- バライ教授は、金融、経済政策、貧困削減に焦点を当てた数多くの著書がある。
- バングラデシュのフルブライト同窓会など、さまざまな国際学術団体のメンバーでもある。

## Part II: 仕事での挑戦

**マネジメント関連の授業において、学生を惹きつけ、学習を促進するために、どのような教え方や戦略が効果的だと思いますか？**

**教授：**教室で学生の注意を引くことは、特にTikTokのような短編コンテンツの普及によりますます難しくなっています。学生たちは短時間で簡単に理解できるコンテンツに慣れており、集中力の継続時間は短くなりつつあります。この課題に対処するため、私は学生の関心を引きつけられるよう様々な仕掛けをしています。まず、質問を投げかけたり、意見を

共有するように促したりして、積極的にディスカッションに参加させます。こうすることで、学習への参加意識と主体性を育むことができます。加えて、理論的な概念を補強し、理解を深めるために、実践的な練習問題やケーススタディを授業に取り入れています。さらに、定期的な授業への参加と評価を促すために、小テスト、課題、試験を活用しています。すべての学生がこれらによる評価を楽しんでいるとは限りませんが、理解度を測り、学習意欲を高めるための効果的な手段として役立っています。



バライ教授の投資・証券分析の授業

## APUの教員として直面した最大の課題は何ですか？また、どのような方法でその課題に対処し、克服してきましたか？

**教授：** 良い質問ですね。APUに来た当初、私は世界各地に滞在していたため、様々な文化的視点を持っていました。ここ数年、私は教育が簡単ですぐに達成できるものであるべきとする傾向が強まっていると感じています。この考え方は、教育に対し真剣に、献身的に取り組んできた私の経歴に対し、異議を唱えるものでした。これまで私が慣れ親しんできたものとは異なり、学生たちは、成績に焦点を当てて授業内容をカバーすることにますます重点を置くようになっていきます。また私は、異なる文化的背景を持つ学生たちのさまざまなニーズや期待に対応しなければなりません。

初めはこの状況は大変でしたが、時間の経過とともに、私は学生の心理をより理解し、順応することができるようになりました。学生の期待にいつも完全に応えられるとは限りませんが学問的な厳しさを保ちつつ、学習しやすい環境を作りながら学生を引きつける戦略を練ることで、より効果的に状況に対処する方法を見つけました。

“

...私は学生の心理を深く理解し、順応することができるようになりました。



インタビュー日のQチーム

## 同僚教員から学んだ教授法を取り入れたことはありますか？

**教授：** 私たちにはそれぞれ長所と短所がありますが、お互いに学び合うことによって教育力を向上させることができます。学習は行動を変えるものです。もし私たちが身につけた知識や技術が、私たちの行動に好ましい影響を与えないのであれば、それは真の学習ではないのかもしれませんが。私は幸運にも、APUでミネソタ大学と共同で実施されたミネソタ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）プログラムに参加することができました。このプログラムでは、APUの先生方からは有益な

見識を、ミネソタ大学の教育プログラムの専門家からは効果的な指導の方法を学ぶことができました。このプログラムに参加するまでに、私は授業で様々な指導法を実践しようとしてきました。しかし、この正式なプログラムでは、体系的なアプローチを学び、特定のテクニックの重要性を再確認することができました。教育とは、継続的な改善と、学生のニーズに最適に応えるために適応することがすべてなのです。

### 授業にグループワークをどのように取り入れていますか。実践例を教えてください。

**教授：** 授業の内容によってグループワークを使い分けています。基礎的な金融論の授業では、まず学生それぞれが自主的に概念を把握する努力をすべきだと考え、個人学習を重視しています。グループワークは問題解決に役立つかもしれませんが、基礎的な金融論の授業では必ずしも必要ではありません。

しかし、「金融市場と金融制度」、「投資・証券分析」、「国際金融論」といったより専門的な授業では、異なる方法を採用しています。私は変化するグローバルな状況を評価し、ロシア・ウクライナ戦争のような出来事が世界の金融市場や投資環境に与える影響など、関連するトピックを割り出しています。これらのトピックに基づいて学生をグループに分け、共同課題を課します。専門科目の場合、グループ課題に取り組むことで、学生は異なる視点の意

見も取り入れることができ、ディスカッションを通じて批判的に思考し、経済状況に関する意見形成をすることができます。

### 講義の中で、学生がAI技術を利用して学習することについてどう思われますか？

**教授：** 学習目的であれば、テクノロジーを受け入れるべきだと思います。私たちは、その存在をただ否定することはできません。AIは急速に進歩しており、その可能性の全容は分かりませんが、その影響力が増していることは認識しています。AIは確かに複雑な概念の理解を促進し、学習の貴重な助けとなります。しかし、AIを学習のツールとして使うことと、批判的思考力や問題解決能力に取って代わるほどAIに依存することは紙一重です。例えば、アメリカでは、多くの学生が英語を話すことに秀でていても、テクニカルライティングやコミュニケーションのスキルに苦戦しています。もし文章を書くような作業をAIに頼りすぎると、特定の分野での基本的なスキルが欠如した世代が生まれる可能性があります。



先生は2017年に“共通の未来へ向けて：アジア太平洋地域における成長と持続可能性の見解”という本を執筆されていますね。その後、先生の見通しや金融の分野で何か変化はありましたか？またその結果、先生の見通しの変化に伴って教育方法に関して変化はありましたか？

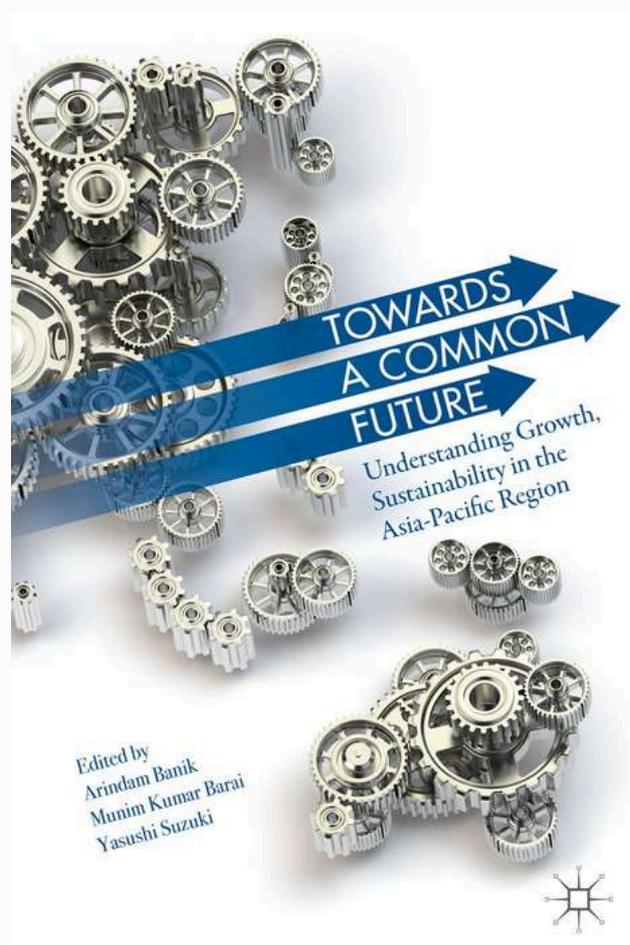
教授： 著書についてのご質問ありがとうございます。“共通の未来へ向けて”は、アジア諸国の将来への展望と、グローバルな舞台で台頭しつつある経済的な重要性について論じています。この本が書かれた当時は、すでにアジアが世界の経済の中心になりつつあることが示唆されていました。アジア諸国の共通の未来というコンセプトは、この本の全体的な見通しの中心的なテーマでした。

その後、アジアの発展を見れば、その見通しはさらに正当性を立証しています。アジアの経済的優位性は成長を続けており、この7、8年の間に、その成長はさらに顕著になっています。私は今、アジアには確かに共通の未来があると断言する自信があります。しかし、アジアの経済的影響力が増していることから、こうした動きを正確に反映させるために、この本を改訂する必要があるかもしれません。

私の授業、特に国際金融論の中で、経済の原則を説明するために時事問題をよく取り入れています。例えば、最近のロシア・ウクライナ戦争とそれが国

## Part III: 個人的な見解 とアプローチ

際金融に与える影響について論じる際には、投資の流れの変遷を強調するようにしています。アジアが成長しているのとは対照的に、ヨーロッパは相対的に投資額が減少しており、アジアの経済的的重要性が増しているという見方はさらに強まっています。





カナダ大使館

## カナダ高等弁務団での経済・政治アドバイザーとしての職務経験は、授業にどのように活かされていますか？

教授： この実務経験のおかげで、私は独自の視点を持つことができました。外交官との仕事では言葉遣いや思慮深さに配慮することを求められますが、一方で私の授業の環境ではより自由に意見を表現することを可能としています。また、外交官の仕事では、人生のさまざまな場面で非常に役立つ交渉術も重視されます。私が学んだ重要な教訓のひとつは、交渉の際に明確な境界線を設定することの重要性です。例えば、ビジネス上の取引について話し合う場合には、交渉の過程において最低価格と最高価格の両方を設定し、その範囲内で交渉を行うことが不可欠である一方、もし交渉相手が固定価格で臨めば交渉の余地はほとんどありません。私はこのような教訓を常に授業に取り入れているわけではありませんが、個人的や仕事上の交流から、このような視点の重要性を学生に伝えることはできます。

## 先生の授業を取っている学生たちに、貨幣の時間的価値といった授業で学んだ理論を実際の社会の状況に応用できるよう、どのように後押ししていますか？

教授： 過去や現在を計画することはできません。私たちが計画できるのは未来だけです。人は未来についての計画が必要ですから、貨幣の時間的価値は誰もが学ぶべきものだと思います。未来の計画、つまりファイナンシャル・プランニングでは、基本的に年金、貯金、老後、家族管理などを計画する必要があります。貯蓄を始める場合には、その将来価値を考えなければなりません。この知識は貨幣の時間的価値から得られます。予測は100%正しいとは言えませんが、いくら投資す

べきか、いくら貯蓄すれば投資できるかの品とを与えてくれます。このような計画は生活の質を向上させるので、誰もが早めにこの概念を把握できるように努めるべきです。貨幣の時間的価値を理解することは、十分な情報に基づいた財務上の意思決定をするのに役立つだけでなく、個人がより効果的に資源を管理する力を与えてくれます。このように、ある理論が私たちの生活にどのような直接的な影響を与えるかを説明することで、学生たちが実生活に結びつくよう促しています。

## 先生が得意な、またはうまくいった教育活動や授業の例を教えてくださいませんか？

**教授：** もちろんです。私が特に効果的だと思う教育活動の一つは、複雑な概念を説明するために実際の例えを使うことです。たとえば、金融の基本的な概念である貨幣の時間価値について議論するとき、私はよく1626年にマンハッタンがオランダに売却された話をします。マンハッタンはオランダに、当時の金60オンスに相当するわずか24ドルで売却されました。一見すると、この金額は取るに足らないように思えるかもしれませんが、複利計算を使って現在価値を計算すると、学生たちはその差の大きさに驚きます。

## Part IV: 結論

### 先生の授業の受講生に期待することは何ですか？また、この分野を志す学生にどのようなアドバイスをしたいですか？

**教授：** 私は先生と学生の絆が親子関係に似ている社会の出身です。教師はよく"グル（尊師）"と呼ばれ、知識を持ち、常に学生のためにベストを尽くすことを望んでいるとみなされます。同じように、私も学生が優秀であること

お金の価値が時間と共にどのように変化するかを実例で示すことで、学生たちは、金融上の意思決定においてお金の時間的価値を考慮することがいかに重要であるかを目の当たりにすることができます。この実例は学生の注意を引くだけでなく、概念の理解を容易にします。数学であれ、政治であれ、経済学であれ、実例は学習をより魅力的で関連があるものにするとは信じています。



を望んでいます。学生の授業態度が成績に影響することを注意喚起することもあります。実際には、成績評価は学生の学業成績に基づいています。多くの教員と同様、私が期待することは、「真面目に勉強すること」、「授業の課題に取り組むこと」、「優秀であるために励むこと」です。

多くのことを教えていただきありがとうございました。本日のインタビューの最後の質問ですが、学生を教え、指導することにどのようなやりがいを感じていますか？



“ 特に教員学生の福祉を委ねられています...”

教授：最もやりがいを感じる部分は私の教育に対する文化的アプローチに根差しています。そこでは教師と学生の関係は生涯にわたるものであり、深い意味があると考えられています。特に教員は学生の福祉を委ねられており、この指導原則が私の教育と指導への方針をかたち作っています。近年注目されている「楽しみながら学ぶ」という考え方とは異なるかもしれませんが、私は教育とは啓発と社会貢献を目的とした真剣な取り組みであると考えています。学生たちが成功し、地域社会にポジティブな影響を与える姿を目の当たりにすることは、私に大きな満足感をもたらし、教育の変革力に対する私の信念をより強固なものにしてくれます。

APUで素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてください、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて[Q]と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。



とは

# インタビューの感想

**名前:** 神門美羽

**学部:** APM

**出身:** 日本

**感想:** 私は今回のインタビューを通して、学生に真摯に向き合いながら、常に授業改善を実現しようとしているBarai先生の姿勢に感銘を受けました。Barai先生は学生の成長や成功を尊重しながら、日々、学習しやすい授業環境づくりを行っています。特に授業内容にケーススタディや時事問題を取り入れていることは、学生の授業の理解度や学習意欲の向上にもつながっています。このように、学生のニーズに適切に対応しながら、より良い授業環境を実現しようとしている姿勢は、とても素晴らしいなと思いました。

## インタビュアー&翻訳者



## インタビュアー&ライター



**名前:** アウンシトゥー

**学部:** APM

**出身:** ミャンマー

**感想:** バライ先生のインタビューに私はとても啓発されました。先生の様々な教育・職業経歴がもたらすグローバルな視点のおかげで、インタビューはとても豊かなものになりました。バライ先生の革新的な教育方法と、多文化な学生層のニーズに適應する能力には特に感銘を受けました。先生の金融論の実践的な応用に関する洞察や、交渉スキルの重要性についての見解も非常に洞察に富み、刺激的でした。

バライ先生の献身的な教育への姿勢や、教師と学生間の有意義な関係の構築について深く感謝をしながらインタビューを終えました。先生の金融論のアプローチは、単に知識を伝えるだけでなく、学生に好奇心と熱意を抱かせています。

**名前:** グエンミントゥ

**学部:** APS

**出身:** ベトナム

**感想:** Barai先生とのインタビューはとても印象的に残るものでした。先生は教室での学びに実体験を取り入れることの重要性を強調し、さらに私の母国、ベトナムの出張時の興味深いエピソードも話してくださいました。バライ先生がベトナムでの時間を懐かしそうに語るのを聞いて、APUの国際コミュニティが提供している多様な機会についてもっと知りたくなりました。先生の学問に対する情熱は私のやる気にも火をつけ、勉強へのモチベーションを高めてくださいました。

## インタビュアー&デザイナー

